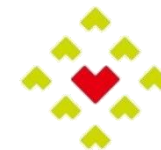


茅野市DX基本構想

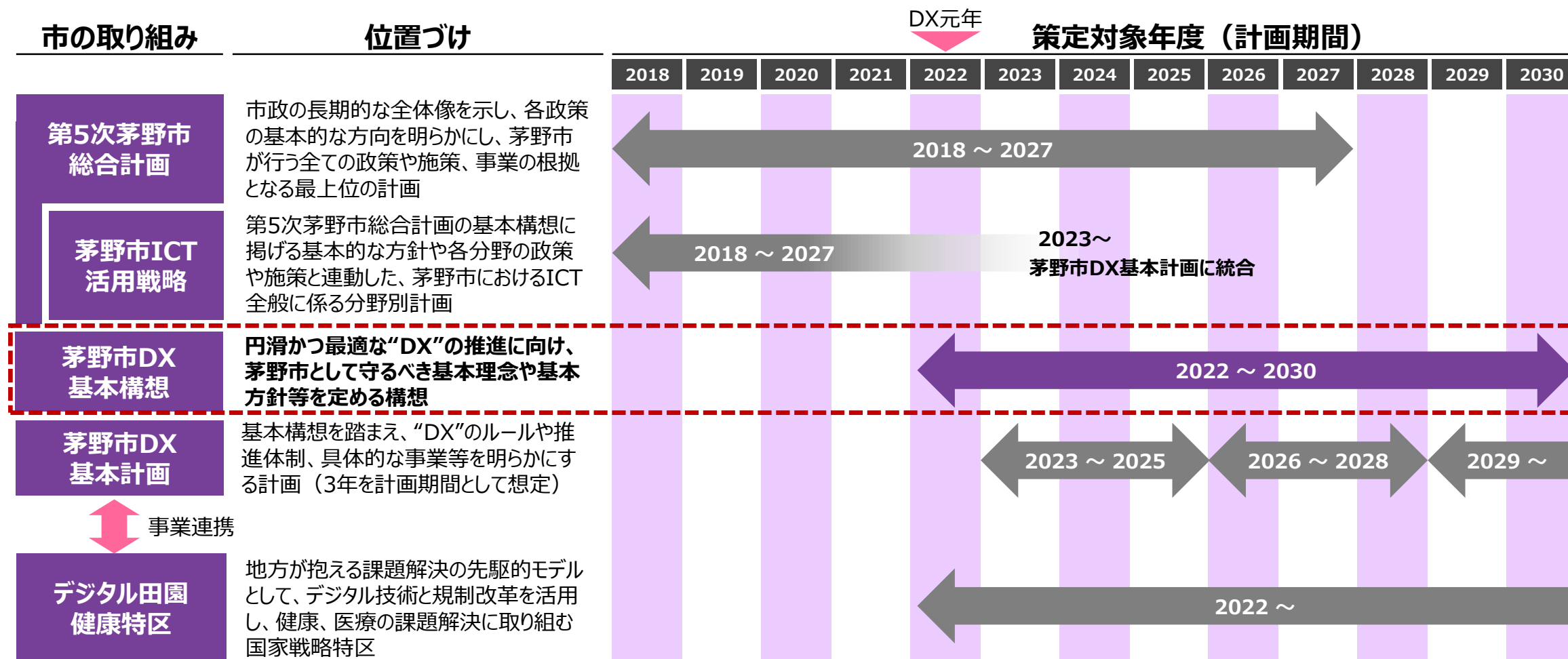


2022年6月



茅野市DX基本構想の位置づけ

茅野市は、2022年度を「DX元年」と位置づけ、“DX(デジタル・トランスフォーメーション)”を推進していきます。本構想は、今後の当市のDX推進の指針として、当市に最適な“DX”のあり方を明らかにするものです。この基本構想に基づく具体的な進め方は、今後策定する「茅野市DX基本計画」で明らかにします。



“DX”は必要なのか

茅野市の現状分析



人口減少社会において、様々な分野で今後も“担い手不足”が続く中、私たち茅野市はどのように“まち”を維持していけば良いでしょうか。

強み

新たな知見や価値観を取り込み、より良いまちの実現につなげることができるポテンシャルを有している

- ハケ岳の麓に広がる雄大な自然環境と冷涼な気候
- 観光客、別荘利用者など、外部との交流を広く取り込む風土
- 地域の市民活動で育まれた市民力の高さ
- 市内に住民票を置く「住む人」、別荘利用者である「関わる人」、観光客、ビジネスマン等の「訪れる人」という多様な「市民」の存在
- デジタルの利用に寛容な市民性

弱み

限られた人手で貴重な自然の保全と点在する施設等の老朽化に対応し、市民の健康と産業の活性化を図り、“まち”を維持していく必要がある

- 急激な人口減少・少子高齢化、特に若年層人口の流出の深刻化による、地域の担い手、働き手の不足
- 観光客数や1人当たり観光消費額の減少
- 空き家、空き別荘、空き店舗の増加
- 高血圧の人の割合の高さ
- 広い市域と点在する施設等によるインフラ、ライフラインの維持コストの高さ
- 従業員1人当たりの製造品出荷額等の低さ
- ハケ岳西麓の環境保全に対する必要性の高まり

機会

国は、各種支援策や特区制度を活用し、地域におけるデジタル技術やデータ活用を強力に支援

- 国は様々な施策展開により、地域のデジタル技術やデータ活用を強力に支援
- デジタル田園健康特区の指定により、デジタル技術を活用した地方の健康、医療の課題解決をモデル的に推進

脅威・不安

コロナ禍により明らかになった日本全体としてのデジタル化の遅れに対し、地域がばらばらにデジタル化に取り組んでいる

- 日本全体のデジタル化の遅れ
- デジタル技術やデータ活用は地域ごとに進んでおり、地域間格差が生じているとともに、他自治体との連携がとりづらい

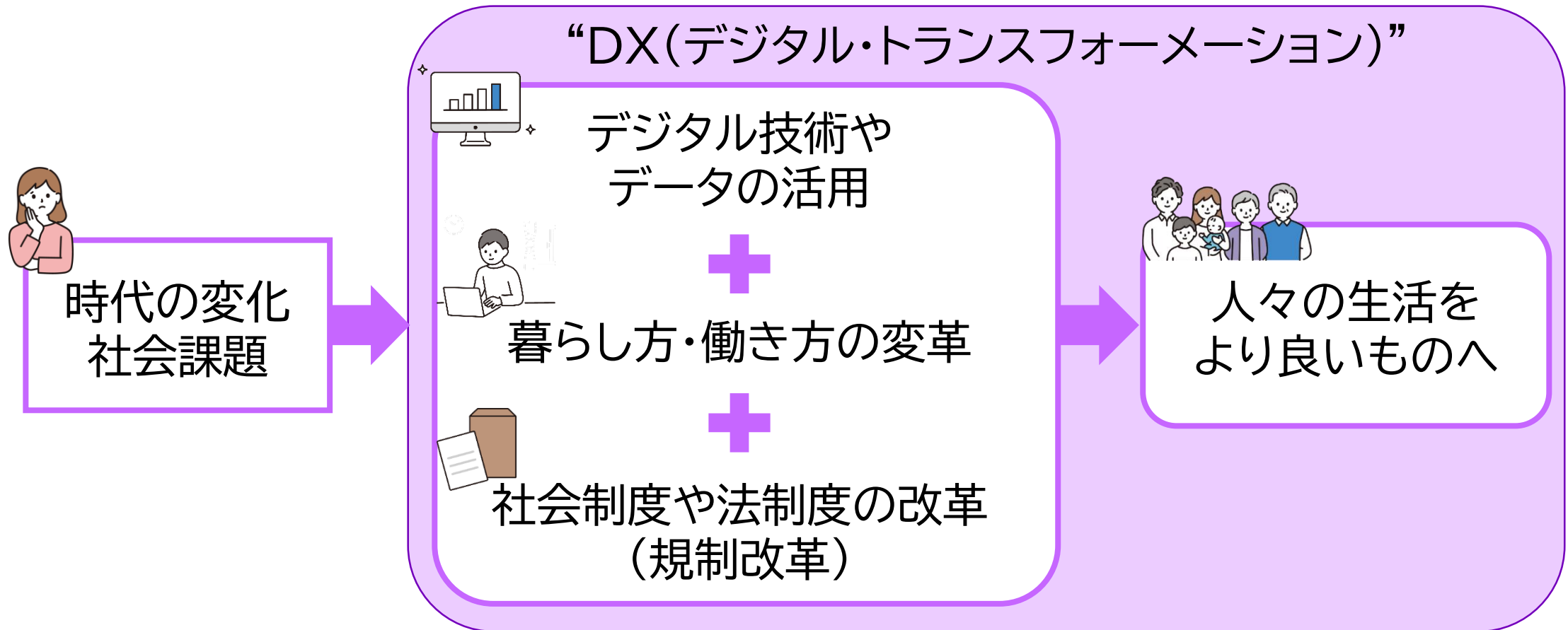


国家戦略特区である「デジタル田園健康特区」の指定が追い風となり、デジタル技術やデータを活用し、全国の地方都市のモデルとして、地域が抱える課題の解決に先進的に取り組むことができるチャンス



“DX(デジタル・トランスフォーメーション)”とは①

“DX(デジタル・トランスフォーメーション)”とは、「デジタル技術やデータを活用することで、暮らしやビジネスのあり方を変え、人々の生活をより良いものへと変革する」という概念です。



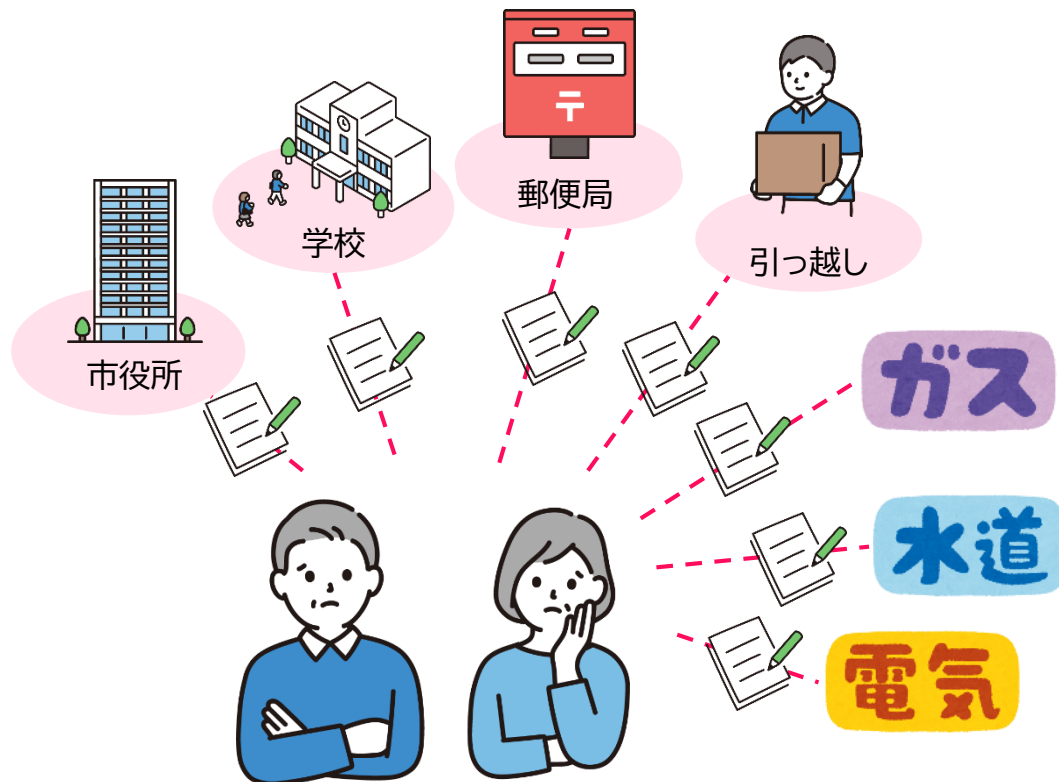


“DX(デジタル・トランスフォーメーション)”とは②

引っ越しの手続きをDX活用との比較例として挙げると、住所変更のためにこれまでそれぞれの機関で行っていた手続きが、デジタル技術やデータを活用することで、複数の機関にまたがる手続きを一つの窓口で一括して行えるようになり、手続きの手間や負担を大幅に軽減することができます。

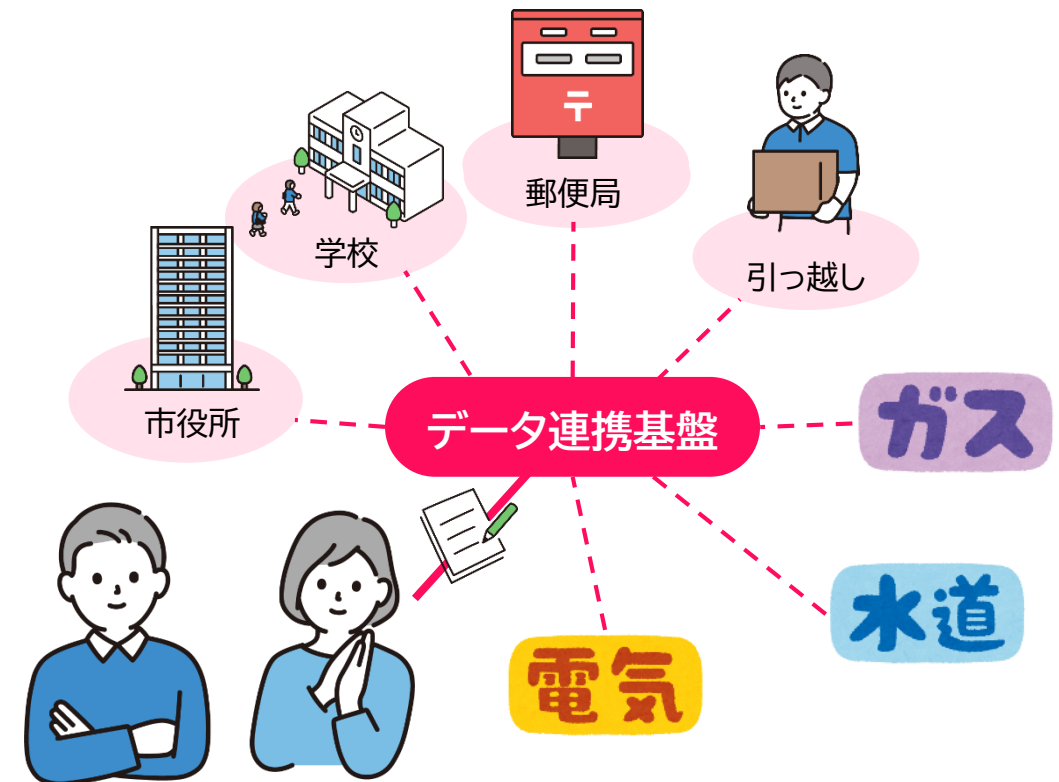
現在のサービスのあり方

引っ越しに当たって、それぞれの機関で個別に手続きを行う必要がある



DXによる新しいサービスのあり方

一つの窓口ですべての機関の手続きを完結することができる





デジタル技術やデータ活用の利点と注意点

デジタル技術やデータ活用は、暮らし方やビジネスのあり方を「変革」とするとともに、地域の様々な課題を解決する一助となります。しかし、デジタル技術やデータは、適切かつ安全に活用されないと、情報の漏えいによる損害や都市機能の停止、利用者間の人権侵害など、個人・社会に大きな損害を与えることになるので、常に対策を講じていく必要があります。



利点

一人ひとりのニーズの充足や、一人ひとりをつなげることで様々な地域課題の解決や、新たな価値の創造につなげることができる

- ニーズ(どこで、誰が、何に困っているのか)やシーズ(誰が、どのように助けられるのか)を見える化できる
- ニーズとシーズを距離や時間に関わらずつなぐことができる
- アナログの仕組みを置き換えることで、省力化や効率化ができる



注意点

デジタル技術やデータの活用は、良い面においても悪い面においても日々進化していくことを前提に、外部からの攻撃に備えるとともに、デジタルコミュニティ内部での情報漏えいや利用者のモラル向上に、不断の注意を持って運用しなければならない

- デジタル技術が日々進化する中で、あらかじめ想定しうる安全対策を講じる必要がある
- 外部からの攻撃に備える必要がある
- 利用者のモラル向上(デジタル・シティズンシップ教育など)を図る必要がある
- デジタル社会の恩恵から誰一人取り残さない配慮が必要

デジタルありきではなく、
課題解決の視点でデジタルを活用



まちの課題

デジタル技術・
データの活用

課題解決
新たな価値の創造

“DX”を安全に、最大限活用するための対策

ルールづくり

意見の反映・
参加の促進

学びの場の提供

セキュリティ対策

茅野市で“DX”をどのように活かすか



茅野市が未来につなげたいもの

「市民一人ひとりが心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができるまちであり続ける」ことは、これまでの当市のまちづくりにおいて一貫して大切にしてきた想いです。この想いを実現するために、この地域に古くから見られる人と人が助け合い、支え合う“ゆい”の文化を継承・発展させ、多様な“人の力”をつなげ、高めることで“まちの”力にする新たな支え合いの仕組みの構築を目指します。

**市民一人ひとりが心豊かで健やかに、
快適な生活を送ることができるまちであり続けたい**

令和3年度まちづくり懇談会参加者アンケート(複数回答可)

DXの取組分野として優先して進めるべきだと考える分野「医療・介護」31.3%(第1位)

想いを実現するための“DX”の可能性①

－守りたいものを守るために変えるべきところは変えます



既存の仕組みを見直し発展させ、人口減少の時代でも人と人との助け合いの文化を守ること、全ての市民が安心して充実した市民生活を送ることができるよう、地域の力の源である市民の「人を思いやる心」を守り、高めることができる可能性を秘めています。

人口減少下でも人の手によるあたたかな**福祉**や
血が通った丁寧な**医療**を実践するために
大胆な省力化、合理化を含め改善することができる

市民の**暮らし**と**健康**が守られるよう
様々なデータを安全かつ効率的に運用することができる

市民の**生命**と**財産**を守るために生活環境の変化や
災害の発生、ライフラインの危機を的確に察知することができる

やさしい

守りたいものを守るために
変えるべきところは変えます



想いを実現するための“DX”の可能性②

－互いの多様性を認め合い協力して市民力を発揮します



市民一人ひとりのニーズを的確に拾い上げ、これを満たすことができる技術や知識を持った人、取組につなぐとともに、子どもたちの創造力を伸ばし、市民の「学びと自治」の力を高めることができる可能性を秘めています。

担い手不足の解消と、コミュニティの維持・活性化のために
地域での支え合いや助け合いを効率化することができる

年齢や性別、身体的特徴に関わらず多様な市民が想いを表現し、
交流できるよう、一人ひとりのニーズに合わせた
円滑かつ公平なサービス提供を行うことができる

子どもたち一人ひとりの個性と創造力を伸ばすために、
引き続き効果的な教育方法を探求することができる

行政・民間ともにあらゆるサービスが市民にとって、
便利かつ円滑に提供されることができる

しなやか

互いの多様性を認め合い
協力して市民力を発揮します



想いを実現するための“DX”の可能性③

—人材・資源・財源・情報が行き交い新たな価値を創造します



国内外の最先端の知見や技術、様々な感性とつながり、地域内外の人材と協働することで産業の振興と交流の拡大を進め、茅野市の継続的な発展を図ることができる可能性を秘めています。

新たな**産業**を生み出すために
国内外の知見や先端技術、専門人材、投資を積極的に
取り込むことができる

地域の**生産性**を高めるために
地域内外の人材・資源・財源・情報のマッチングや、
異業種間の交流・連携を強化することができる

市民の**創造性**を高め、**地域文化**を**永続・発展**させるために
市内外の新たな感性を広く取り入れることができる

訪れる人、地域と関わる人の獲得や**移住の拡大**を図るために
当市に興味・関心のある人をひきつけることができる





“DX”を進める上での基本理念

“DX”の持つ可能性を踏まえ、「市民一人ひとりが心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができるまちであり続ける」ために必要なことを「やさしい」「しなやか」「たくましい」の3つの要素に集約しました。この要素を内包し、地域課題の解決と、新たな価値の創造ができるまちの姿「たくましく やさしい しなやかな交流拠点CHINO」の実現を当市の“DX”の「基本理念(市民の皆さんとともに大切に守り続けていく考え方)」とします。

基本理念

たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINOの実現

想いを実現する
ための3つの要素

やさしい

守りたいものを守るために
変えるべきところは変えます



しなやか

互いの多様性を認め合い
協力して市民力を発揮します



たくましい

人材・資源・財源・情報が行き交い
新たな価値を創造します



“DX”をどのように進めていくのか

基本方針



基本理念の実現にあたっては、以下の2つの基本方針のもとに、施策の検討を進めます。

“未来型ゆい”による つながりの拡大

デジタル技術やデータの活用により、「住む人」「訪れる人」「関わる人」の力をつなげ、“まち”の力にする“未来型ゆい”を構築することで、“人”の力、“まち”の力の向上を図ります。

“人”の力・“まち”の力の向上

市民中心のサービス提供

デジタル技術やデータの活用により、一人ひとりの市民のニーズに合わせた、きめ細かなコミュニケーションやサービスの提供により、様々な地域課題の解決と新たな価値の創造を図ります。

個と多様性の尊重

未来型ゆいの構築により多様な市民が活躍できる

たくましく やさしい しなやかな
交流拠点CHINOの実現

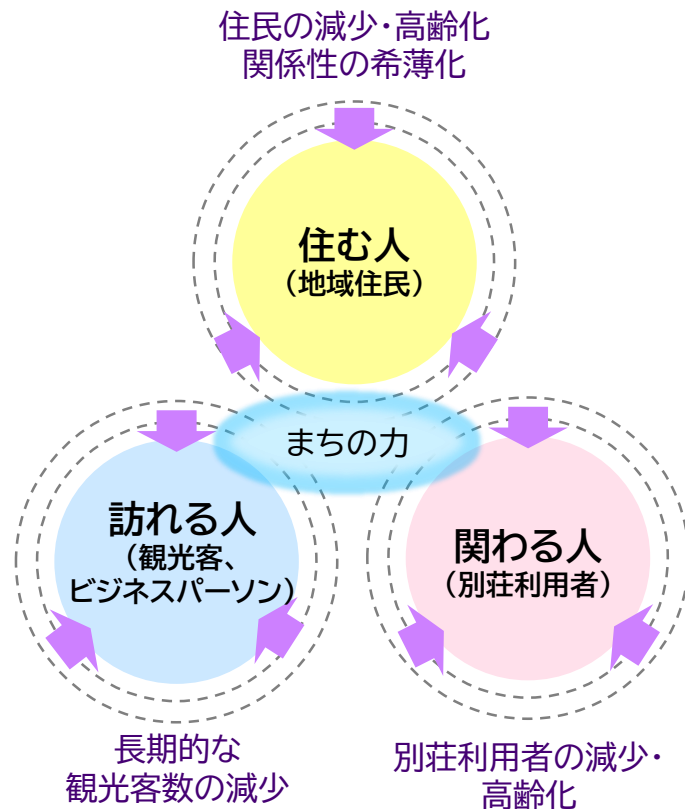


基本方針① – “未来型ゆい”によるつながりの拡大

デジタル技術やデータの活用により「住む人」「訪れる人」「関わる人」の力をつなげ、“まち”の力にする新たな支え合いの仕組み“未来型ゆい”を構築することで地域の担い手不足を補い、“まち”の力の向上を図ります。

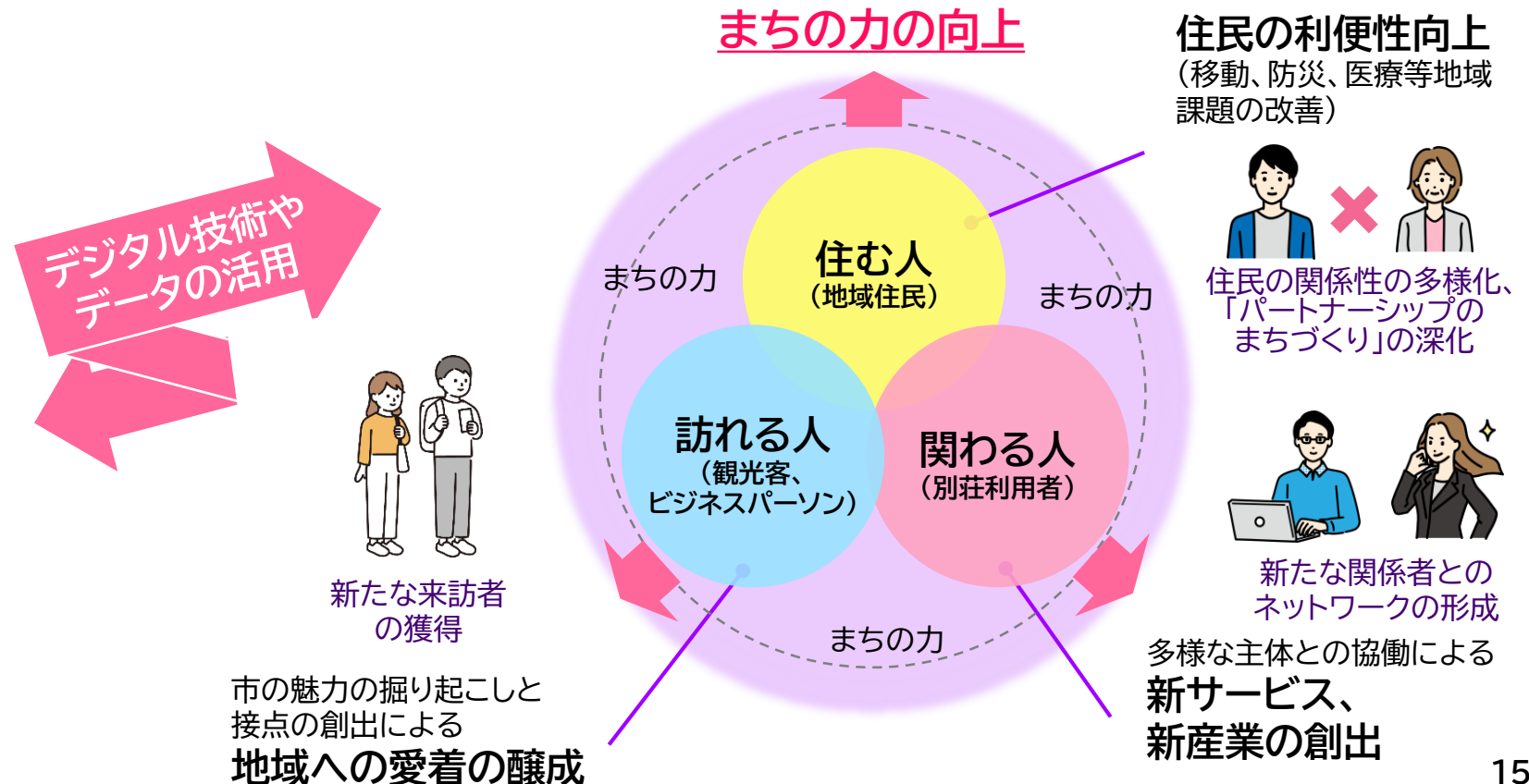
現在の傾向(“まち”の力の縮小)

社会的ニーズの多様化と
地域の担い手の減少により“まち”の力が縮小

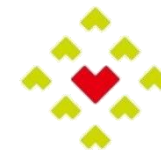


目指す姿(“未来型ゆい”による“まち”の力の向上)

「住む人」のみならず当市を「訪れる人」や「関わる人」も含めた“人”の力をつなげ、高めることで
“まち”の力に変え、地域の担い手不足の解消と“まち”の力の向上を図る



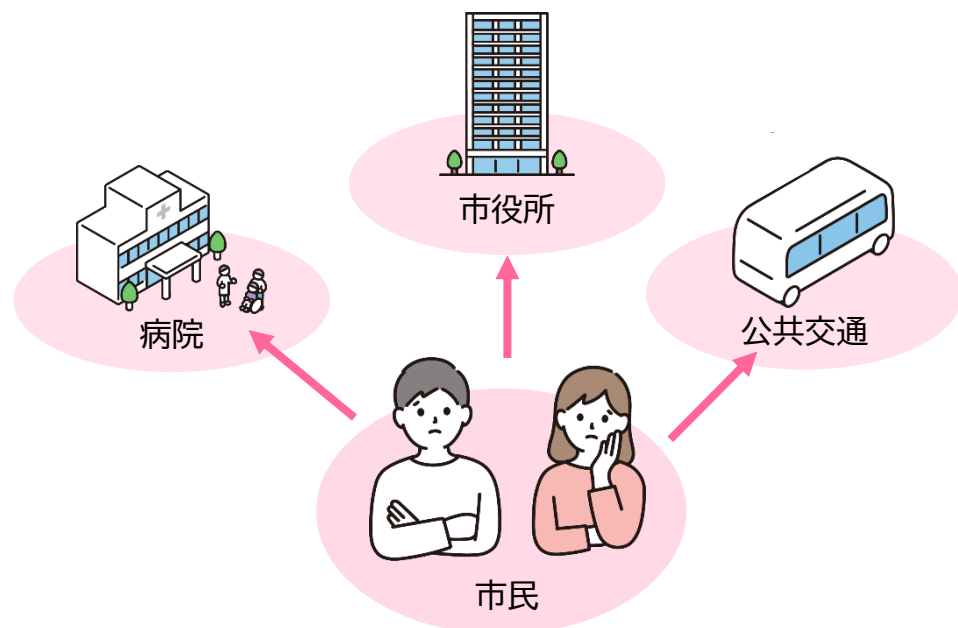
基本方針② – 市民中心のサービス提供



デジタル技術やデータの活用により、一人ひとりの市民のニーズに合わせた、きめ細かなコミュニケーションやサービスの提供により、様々な地域課題の解決と新たな価値の創造を図ります。

これまでのサービスのあり方

サービス提供者は、自身の都合に合わせてサービスを提供
利用者はサービスを利用するために都合を合わせる必要がある

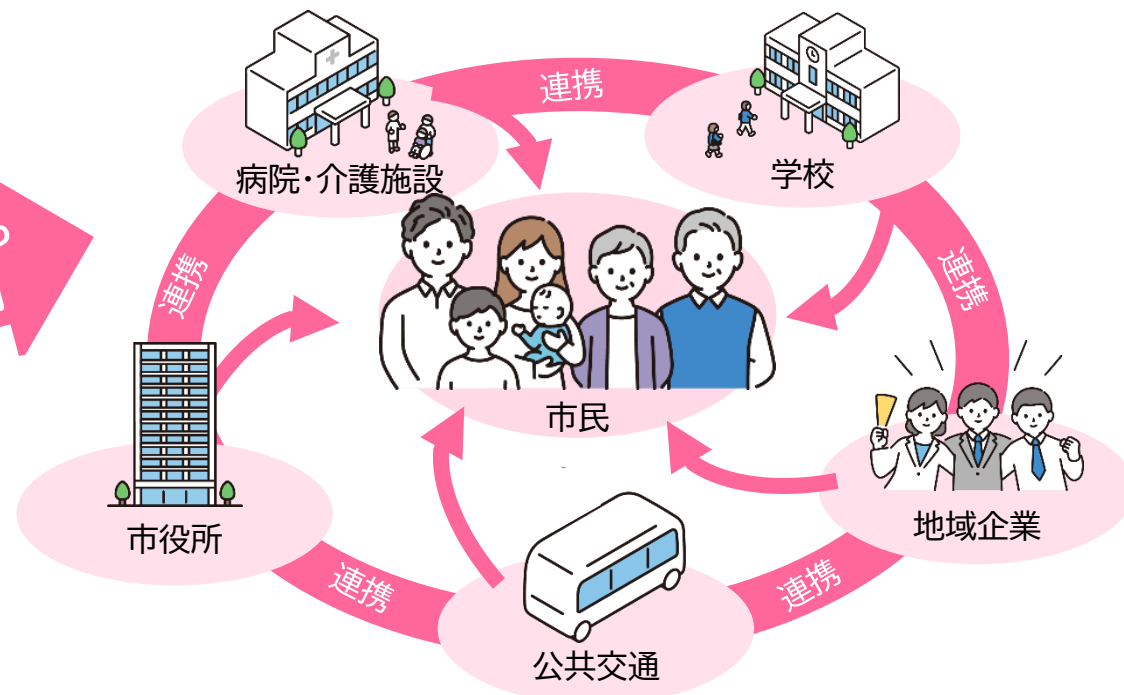


(例)

- ・ 手続きのために様々な施設を回る必要がある
- ・ バスの時刻に合わせてバス停に移動する必要がある
- ・ 何度も氏名や住所を記載する必要がある
- ・ 明確な説明がないとサービスが利用できない

“DX”による市民中心のサービスのあり方

サービス提供者は、利用者(=市民)を中心にしたサービスを提供



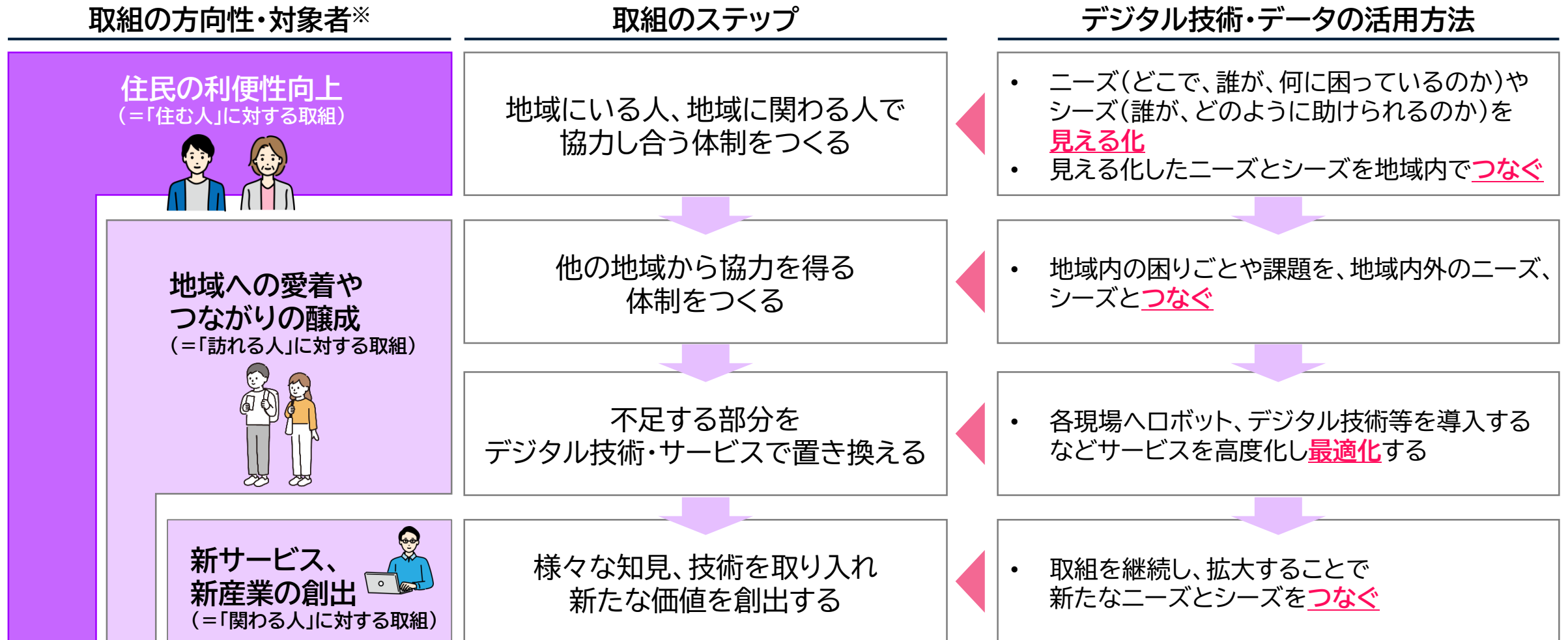
(例)

- ・ 一つの施設のみの手続きでよい
- ・ 移動したい時間に公共交通機関が迎えに来る
- ・ 氏名や住所を記載しなくても良い
- ・ 説明がなくても手軽にサービスを利用できる



基本方針に基づく取組のステップ(イメージ)

茅野市の“DX”における仕組み・サービスの構築にあたっては、「住む人」の利便性向上を軸に、「訪れる人」や「関わる人」の力を活用できる方法を検討します。



※: 基本方針①「未来型ゆい」の構築における取組の方向性、および構成者

安全・確実に“DX”を進めていくために
（茅野市DX基本計画における検討事項）



“DX”を支える4つの柱(基盤)

デジタル技術やデータ活用における市民の安全性を担保し、かつ利便の向上を図ることで当市の“DX”を確実に進めるため、次の4つの柱(基盤)を構築します。

ルールづくり



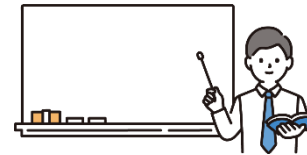
市民が安心して“DX”の取組に参加できるよう、国や国際的な団体が提唱するルールを参考に、人権に最大限配慮した茅野市のルールを策定します。

意見の反映・参加の促進



市民の不安を解消し、安心して“DX”の取組に参加いただけるよう、目的の共有や意見交換の場の提供や“DX”の取組を評価し、いただいた意見を改善につなげる仕組みを作ります。

学びの場の提供



デジタル技術やデータの活用に対して、希望する全ての市民が必要とする知識や技術を身につけられる、様々な学びの場を提供します。

データ連携

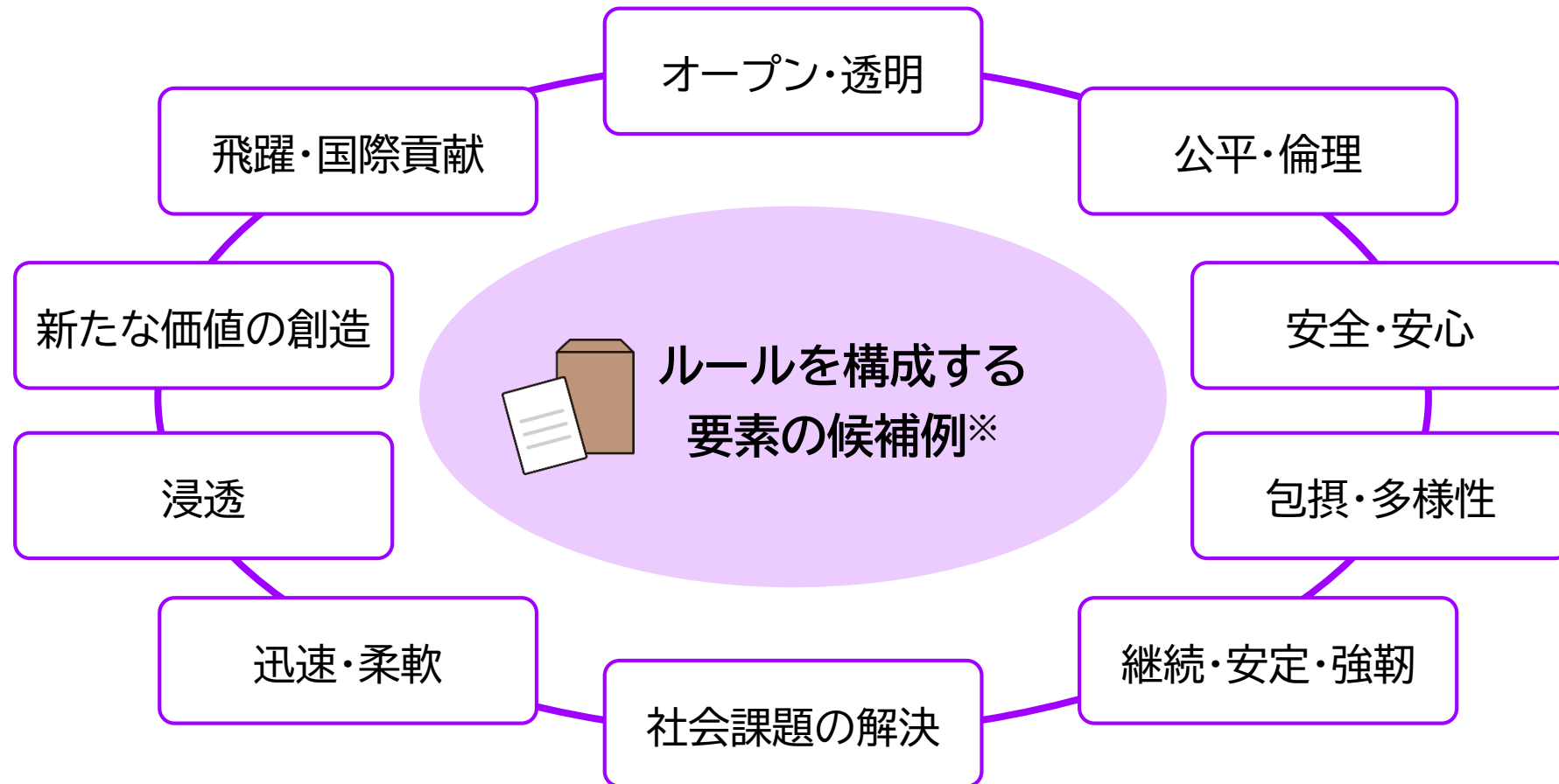


市民が自らのデータを必要なときに、正しく素早く利用できるように、また、市民自らがいつでもそのデータを確認し、コントロールできるようにオープンで安全なデータ連携基盤を整備します。



“DX”を支える4つの柱① – ルールづくり

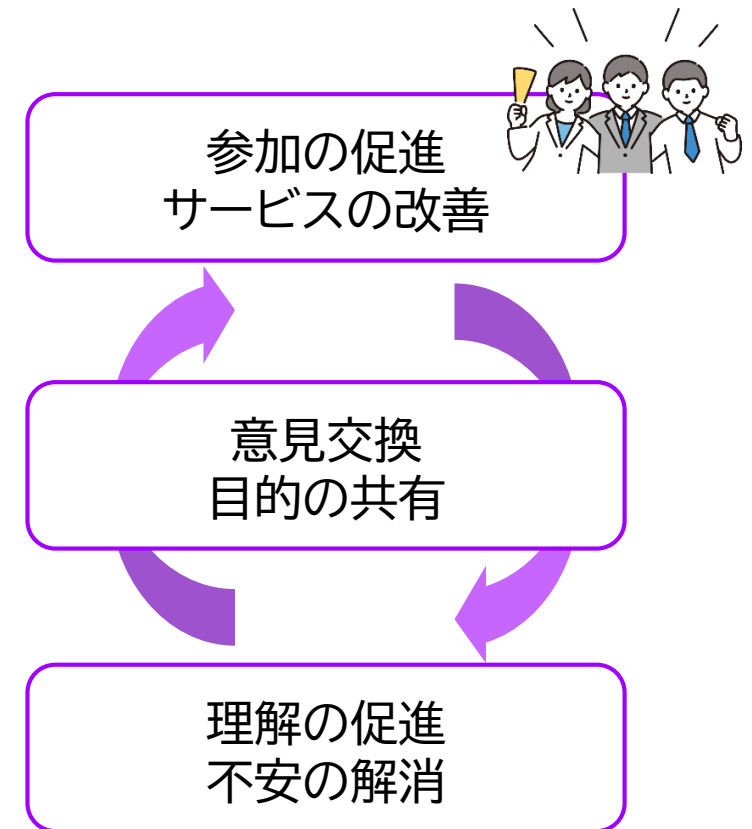
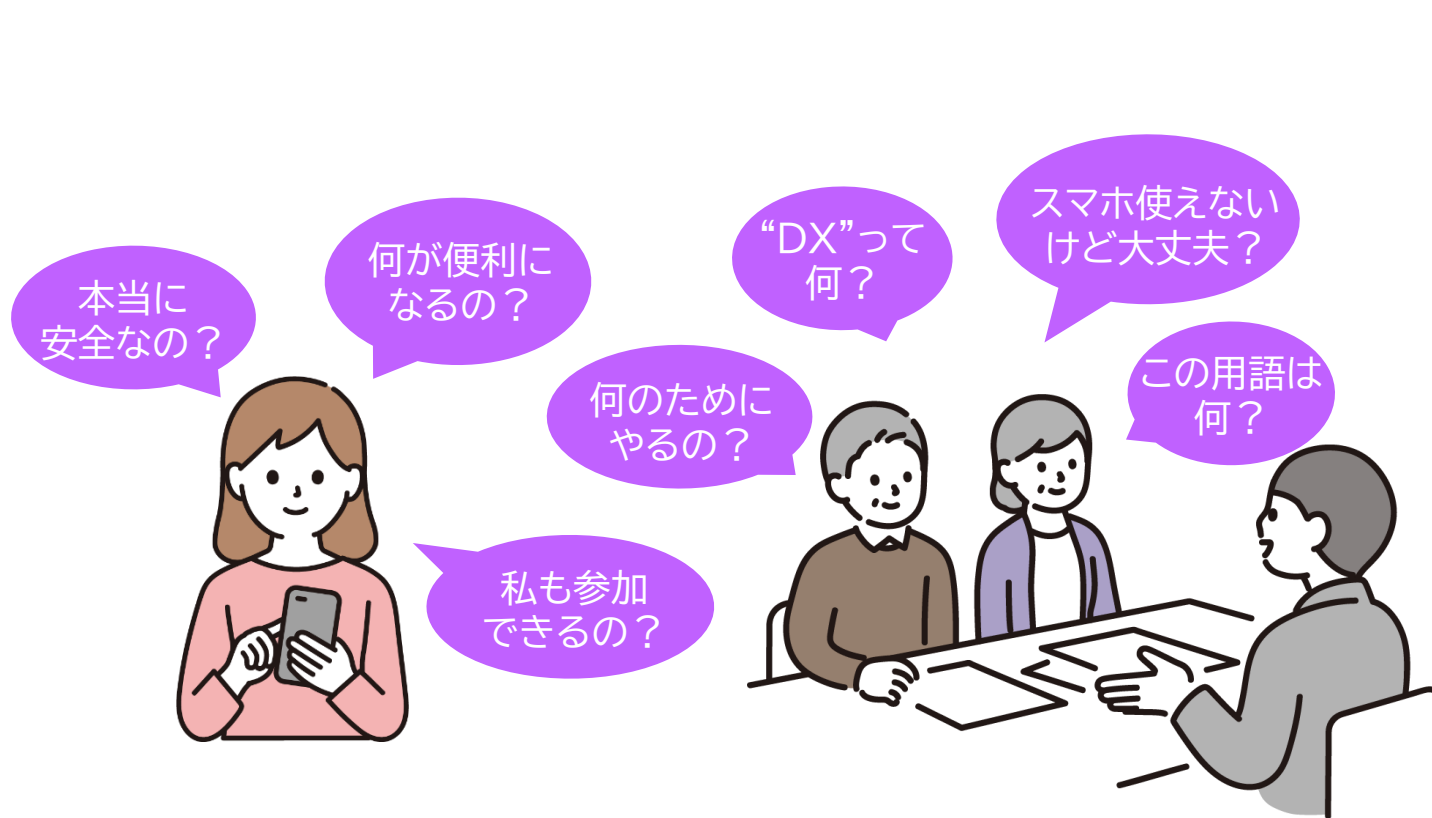
市民が安心して“DX”の取組に参加できるよう、国や国際的な団体が提唱するルールを参考に、外部の脅威から市民を守り、オンラインコミュニティにおける倫理を維持するための、人権に最大限配慮したルールを市民とともに策定し、堅持します。



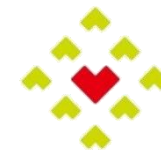


“DX”を支える4つの柱② – 参加の促進

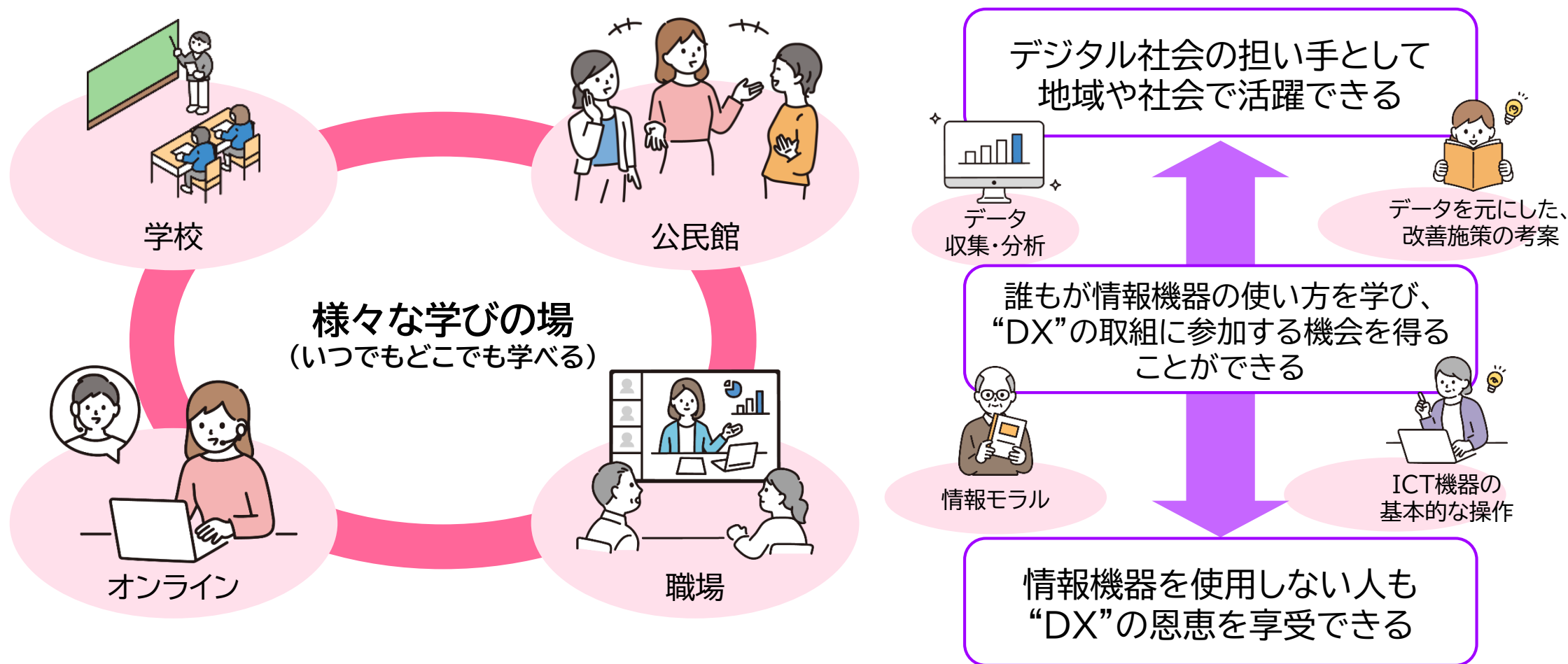
“DX”の可能性を最大限に発揮するためには、市民一人ひとりの理解と主体的な参加が推進力になります。市民の不安を解消し、安心して“DX”の取組に参加いただけるよう、講習会やHPでの掲載など目的の共有や意見交換の場の提供や“DX”の取組を評価し、いただいた意見を改善につなげる仕組みを作ります。



“DX”を支える4つの柱③ – 学びの場の提供



デジタル技術やデータの活用に対して、希望する全ての市民が必要とする知識や技術を身につけられる、様々な学びの場を提供し、学びを支援します。

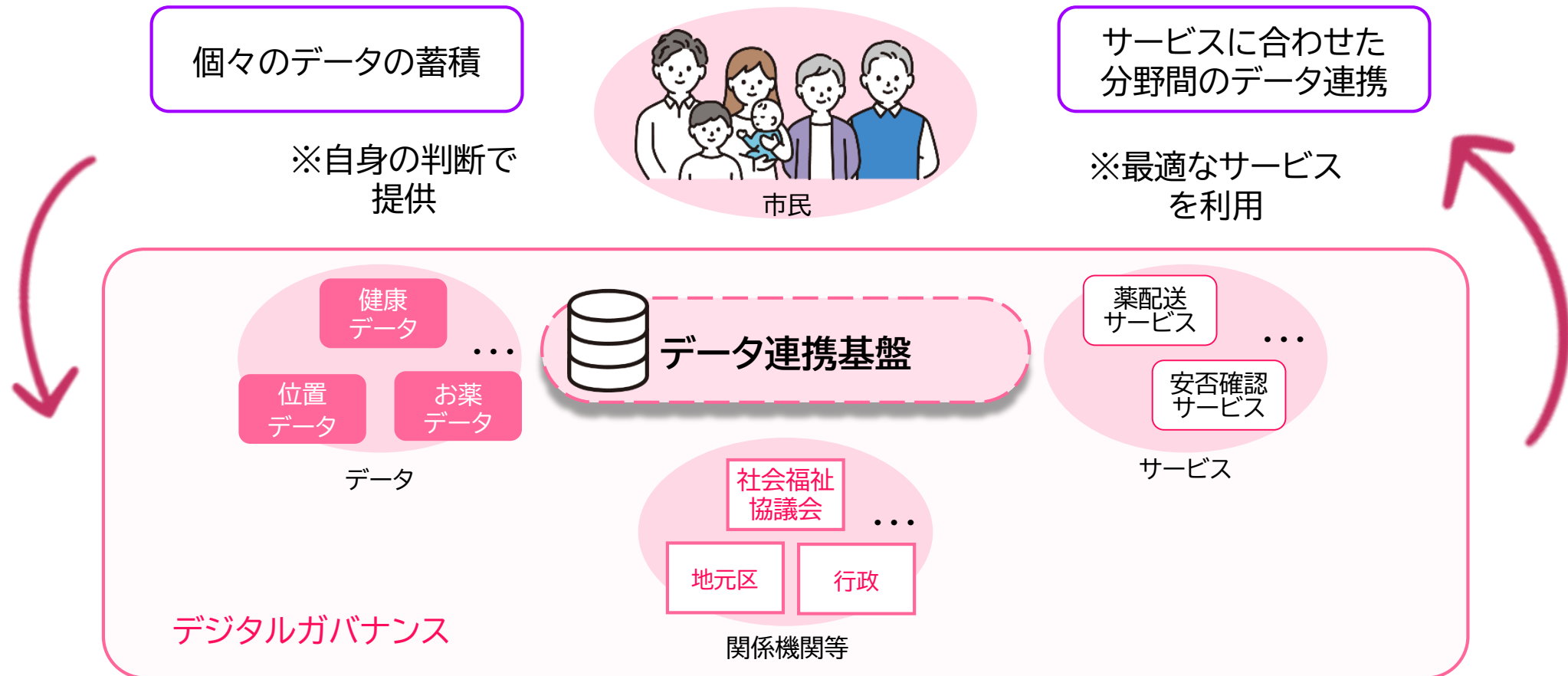




“DX”を支える4つの柱④ – データ連携

市民が自らのデータを必要な時に正しく素早く利用できるように、また、市民自らがいつでもそのデータを確認し、コントロールできるようにオープンで安全なデータ連携基盤を整備します。

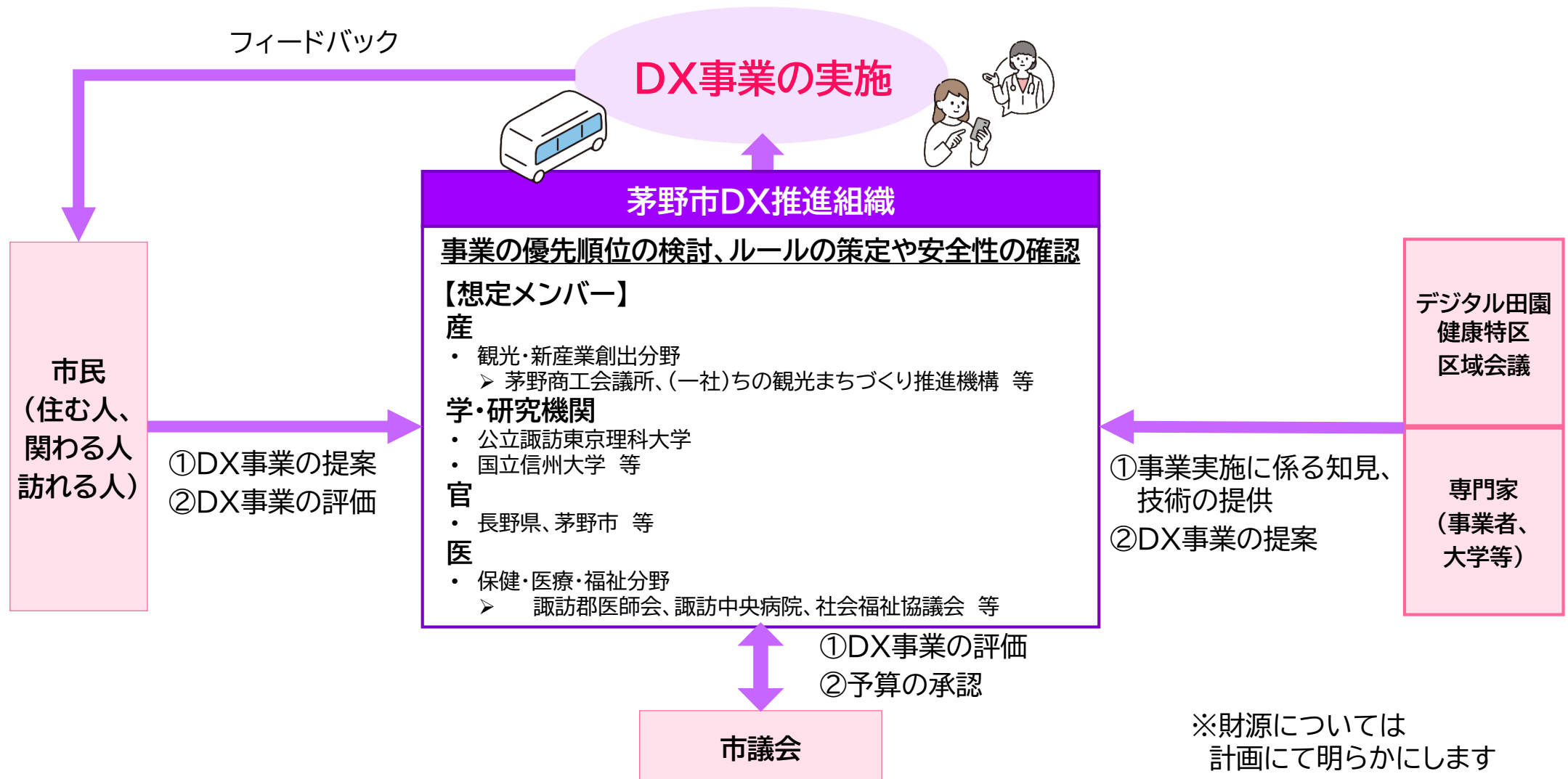
一人はみんなのために、みんなは一人のために





推進体制(市民の声をカタチにする仕組み)のイメージ

“DX”の取組を「市民目線」で考え、推進するため、地域の様々な属性の人々が一体となった組織を構築します。



(参考)茅野市DX基本計画の方向性



スマートシティフレームワーク

利用者
住民、企業、観光客

都市OS

都市マネジメント

スマートシティ 体験デザイン
ビジネス
ビジネスモデル管理

スマートシティ役割・機能管理
推進組織
プレイヤー管理

都市オペレーティングシステム

サービス連携
認証
データマネジメント
アセットマネジメント
外部データ連携

セキュリティ
運用

スマートシティ戦略

目標設定
KGI・KPI設定

スマートシティアセット

データ提供

スマートシティルール

関連法令
ルール・ガイドライン
規制緩和・特区活用

相互運用

外部：他地域（都市MS／都市OS）、他システム、等

参加の促進

学びの場の提供

市民が安心して“DX”の取組に参加できるよう、取組を理解し、利用方法を学べる

データ連携基盤（アセット含む）

構築するサービス・分野、および、使用するICT機器を考慮し、構成を詳細化

ルール

市民の権利やデータを守るための茅野市としてのルールを検討

KGI・KPI

サービスや分野（福祉、防災等）などの設定基準および数値目標を検討

ビジネスモデル・推進体制

サービスの設計やサービスの運用方法を確定する体制を検討

分野・サービス

優先して導入する分野・サービスを検討し、構築にあたる要素を確認

26



分野・サービスの例

「暮らしのDX」「産業のDX」およびこれらを支える「インフラのDX」の中で、基本理念を具体化する施策を展開します。

暮らしのDX

市民の暮らしやすさを向上させる仕組み

- 保健、医療、福祉の高度化
- 行政手続の利便性向上
- コミュニティの維持・活性化
- 教育の高度化・最適化
- こども・親・教育機関の連携体制の構築 など

産業のDX

地域事業者が新たな経済的価値を創出できる仕組み

- 自然環境の保全・活用（エネルギー含む）
- 農業の省力化・高度化
- 観光の最適化
- 地域企業の維持・高度化
- 新産業の創出 など

インフラのDX

市民生活・産業活動の根本に関わる仕組み

- 防災・減災・災害対策
- 公共設備（水道・橋など）維持・管理の省力化
- 輸送・配送の最適化
- 地域通貨・地域ポイントの整備
- 他都市・海外との連携創出
- 行政の業務効率化 など

やさしい



しなやか

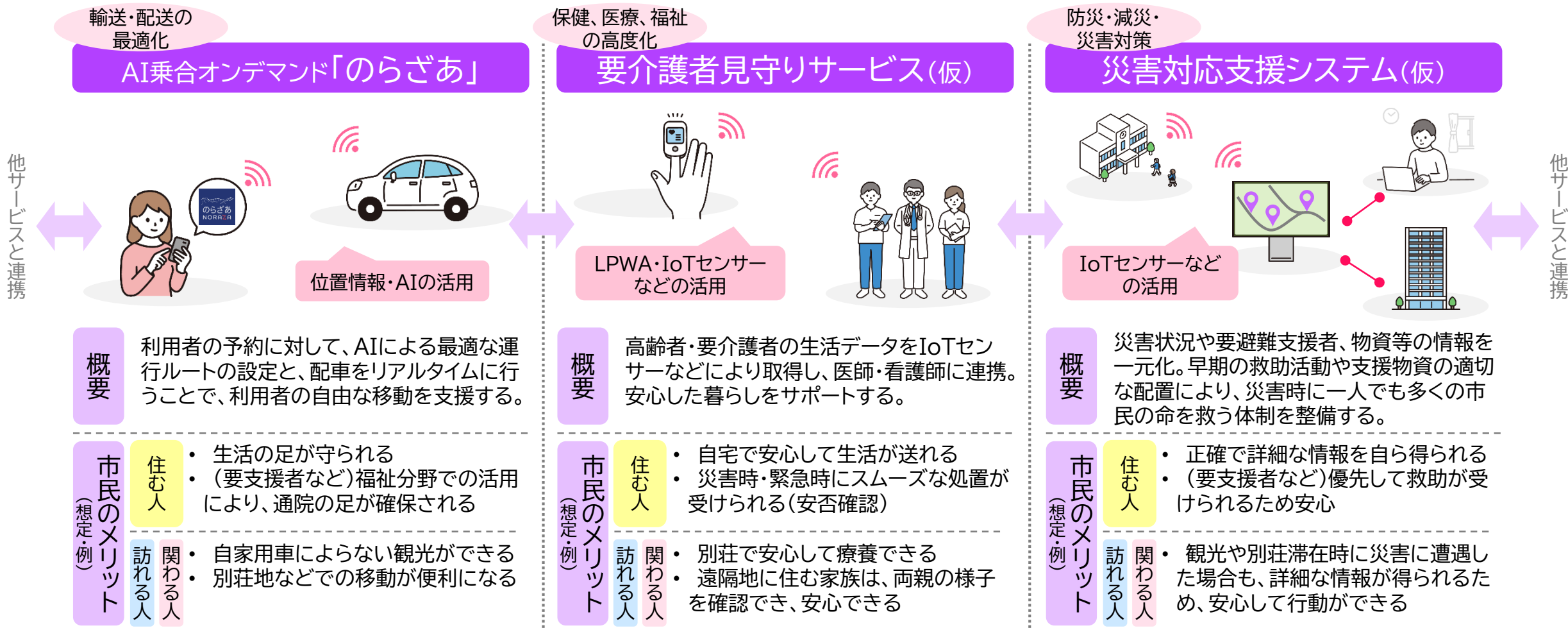


たくましい

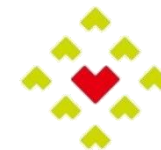




基本理念、基本方針のもとに以下のようなサービスを計画、提供していきます。



分野・サービスのイメージ②



基本理念、基本方針のもとに以下のようなサービスを計画、提供していきます。

